

宮前支部研究だより

第1回宮前支部授業研究会

10月18日(水)に平小学校にて第1回宮前支部授業研究会が行われました。ご多用の中、多くの方々にご参加していただきました。

研究協議では、多くの方から意見や感想をいただき、活発な意見交流ができました。話題になったことや意見や感想をまとめました。

≪3年生 器械運動 「跳び箱運動」 自分を跳び越せ!≫

授業者 清水 元輝先生

研究協議

○感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答

【場について】

○自分が選んだ場に対して、「どうしてそこを選んだのか」を引き出していくと、再考する姿がもう少し見られたと思う。

○「連結の場」で練習することで、腰が高い位置でスタートすることができるので有効だと思った。

○「重ねマットの場」で、マットに線を引いておくことで跳び箱に近い意識で行えると思う。

○段階的な場が設定されていたのでよかった。一方で、安全面が気になった。安全面の部分で抑えるポイントは抑えておきたい。

◎伝えきれていないところがあった。スモールステップの場を用意することで子供たちが技のゴールが見えたと思う。「スポンジ跳び箱」に関しては、軽いので崩れてしまうことがあった。使い方を精査する必要がある。

○首はね跳びの場の意味を理解していたのかが気になった。「つ」の字の姿勢を予備運動でやって、そこから障害物を越える指導はしているが、子供たちみんながポイントを覚えているとは限らないため、易しい場の意味やポイントを掲示する必要があったかもしれない。

【採点について】

☆採点基準について、最初に指導のポイントがあったのか。

◎子供の動画(お手本動画)と担任(60点ぐらい)を撮って、ポイントと採点基準を全体共有した。

☆今日の授業の中で採点することを子供たちがどれだけ意識することができていたのか。また、活動の中のどの部分で点数を意識していたのか。

◎1~3時間目は、一つの技を極めていく時間だったので点数をつける時間があった。今回の授業(6時間目)の1時間の中で採点⇒再考⇒挑戦するのは難しかったように感じる。一つの技に絞った方が採点の姿が見られた。

☆点数が上がった児童に対して、担任からの声掛けがあったのか。

◎オクリンクに提出した動画があったので、個別の課題は担任が理解していて、指導を行えた。

○採点する時間・再考する時間・挑戦する時間に分けて行えるとよいと感じた。

○自分で自分の学びを調整していく子を育てたい。時間や撮影のタイミングなども自分で考えられるようになってほしい。

指導講評 講師：渡部 伸一先生(川崎市立小学校体育研究会副会長、川崎市立東高津小学校校長)

- AARサイクルについては、主体的に取り組む態度につながっていくので、子供たちの学びのプロセスをみんなで学んで行く必要がある。

【今回の授業について】

- とても緊張していた中でよく頑張っていた。運動量も十分にあったと思う。
- GIGA 端末の使い方の例として参考になった。見とるためには有効だが、映像に頼りすぎてしまうことなく、友達同士の生のやりとりも大切にしていきたい。
- 教師はポイントや安全面についてたくさん声をかけていくことが大切。
- 怪我をすると意欲減退につながってしまうので、マットや踏切版などの使う用具や、学習中にマットがズレていないかなど、安全面での確認は大切にしたい。

<場について>

- スモールステップの場が豊富で、個別最適な学び、目的に合った学びになってよかった。一方で、自分のめあてに合った場で活動できていない児童もいた。全ての跳び箱が縦置きだったため、横向きの場を作って、頭はね跳びなどの練習にも有効に活用していくとよい。「重ねマットの場」では、跳び箱の幅にラインを引いておくことで跳び箱に近い意識で練習することができる。

<めあての捉え方について>

- 技なのか、達成するための場なのか、気を付けるポイントなのか、その時間の中ではっきりさせてから授業に望む必要がある。めあてを意識して取り組まなければいけないので、めあてがしっかりともてていない児童に対してどのように関わって行くのかを考えていく必要がある。

<採点について>

- 子供たちの中で「良いところ」「悪いところ」という言葉が点数を付ける上で弊害になっていたように感じる。小さな学びに気付くという意味では良かった。一方で、数字で表すことなのかどうかは疑問に思うところもあるため、今後の研究で検証して行ってほしい。